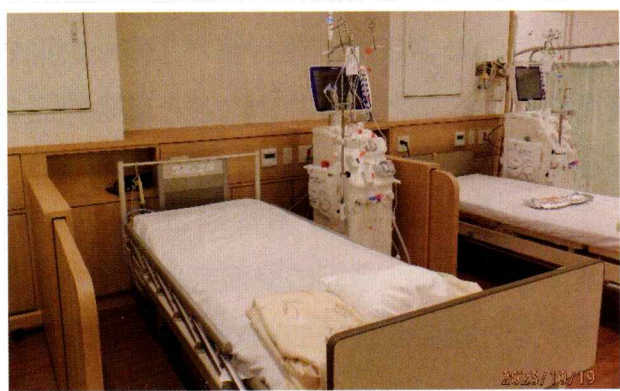


快適な透析室を考える

(医) 高陵クリニック
遠山龍彦先生

慢性腎不全の治療に透析医療が導入されてから半世紀が経ち、現在では通常の治療手段となりました。しかも高齢者医療の一環となりつつあります。しかし、これまでの透析室の空間環境は必ずしも良好ではありませんでした。何人もの透析者が並列臥床し、冷暖房の空気は直接吹き付け、それに何時間も耐えなければなりません。透析室内のコロナ感染クラスターも稀ではありませんでした。これからの透析室は、これらの問題を解決しながら発展させるべきではないでしょうか。

並列臥床に関しては、ナースセンターを中心に放射状にベッドを設置する方法、並列ではあるがベッド間に隔壁パネルを設置し、個室感を持たせる方法があります。当院は部屋の形状から後者を選択しました。



ベッド間の隔壁パネルで個室感あり

冷暖房に関しては、これまでは、室温にむらがある、直接エアコンの風が吹き付ける、場所によって温度差がある、気流によるウイルスやハウスダストが広がる、などの問題がありました。対処方法として、冷暖房に関しては、輻射パネルを各人のベッド上に設置しました。この方法は、空気の

流れがないこと、自然の温度感覚であること、各人で温度設定ができるなどの利点があり、冬の陽だまりの温かさが原理となっています。欠点としては、自然熱輻射による暖房ですので、温度変化を感じるには少々時間がかかることかも知れません。冷房は直接患者様に風が当たらないよう通路部にのみエアコンを設置しました。



冷暖房の問題対策としてベッド上に輻射パネル設置

既に基幹病院では行われている陰圧式の隔離透析室も設置しました。これによりウイルス感染を拡散することなく、何時でも安全に透析医療ができるようになりました。以後院内感染はなくなり、感染処置のための残業が減ったことも利点の一つかもしれません。

以上、現時点で可能と思われる透析室の環境改善を試みてみました。更なる発展のためご教示、ご指導を賜れば幸いです。



陰圧式の隔離透析室